

●そこには美しく神聖な大自然がある●

鹿児島県国際交流員 金 孝真（韓国出身）

映画「もののけ姫」の舞台として韓国でも有名な屋久島。ジブリファンをはじめ、日本アニメーションが好きな韓国人なら親しみを持っているはず！

私が屋久島を知ったきっかけは、韓国にいる時、偶然観た一本のドキュメンタリーでした。それは、屋久島を旅する外国人登山家の話で、当時、屋久島の壮大な自然や、神秘的で美しい苔のある風景などが強く印象に残り、一生に一度は行ってみたいと思いました。それから数年後、国際交流員として鹿児島に来ることができ、今度こそ念願の屋久島に行こうと思っていますが、計画を立てるたびに、新型コロナウイルス感染症に関する外出自粛要請などが出され、残念ながらあきらめる日々が続いていました。

そんな中、新型コロナウイルス感染症の状況が改善した期間を捉えて、先日その念願の屋久島にやっと行くことができました！

このコラムをお読みになる皆様は、既にご存知かと思いますが、私の配属先の鹿児島県国際交流課では、本県の最新情報や観光情報などを多言語で発信する「多言語メルマガ がごしま南の風便り」を発行しています。そのコンテンツとして、県に在籍している各国の国際交流員たちは、国際交流員から見た鹿児島の魅力や鹿児島での体験記などのコラムを掲載しておりますが、その一環で、今回、屋久島に取材に行ってきたのです。

今回の取材の期間は、11月24日から26日までの2泊3日で、シンガポール国際交流員と私の2人で行ってきました。

【1日目】

いよいよ出発！私たちは、朝7時半頃から出発している鹿児島発の高速船に乗り、屋久島へ向かいました。行く前から「天候によって波が高い時は揺れますよ」と何度も聞きましたが、今まであまり船に乗った経験のない私は、自分自身が船酔いをするかどうかも知らずに船に乗ったのです。搭乗してから約30分後、船酔いもせずに、窓からの景色を満喫していましたが、油断したのか、急に頭痛やめまい、吐き気などの船酔いの症状が出てとても辛かったです。それから約1時間半後、私たちを乗せた高速船は、やっと屋久島に着きました！もちろん船酔いは、到着と同時にすぐおさまりました。私たちは、屋久島の新鮮な空気でリフレッシュをして、早速取材に出かけました。



今回の取材は、鹿児島県の屋久島事務所のご支援をいただき、色々な体験ができましたが、この日は、屋久島事務所の県職員の田中主幹と米原主事に宮之浦港まで迎えに来ていただきました。

### ■ 屋久杉自然館

屋久島と屋久杉について知りたい方なら、まずはここ！

この博物館には、縄文杉や紀元杉などの枝が展示されています。これが枝の一部と考えたら、屋久杉の圧倒的な大きさがより実感できました。

そのほか、屋久島の地図と地形模型や、地質と岩石についての解説パネルが展示されており、また、「削って香る屋久杉」や、「数えてみよう！年齢」などの体験コーナーも充実しておりますので、私のように屋久島が初めての方なら、まずはここで事前学習することをおすすめします！



### ■ ヤクスギランド

興味や体力に合わせてお好みのコースが選べる！

標高 1000~1300m に広がる森には、30分、50分、80分、150分、210分の5つのコースがあります。

今回、私たちは、80分コースを散策しました。実は、翌日の白谷雲水峡の登山にあたりウォーミングアップするという気持ちもありましたが、思ったより本格的な登山道でした。私のように登山初心者の方なら、体と心の準備をしたほうが良いかもしれませんね。

このコースでは、千年杉、仏陀杉、くぐり杉などを見ることができました！仏陀杉は、「釈迦杉」とも呼ばれ、幹にできたこぶの様子が仏様の顔を連想させることから、この名前が付けられたそうです。このように、屋久杉の名前は、それぞれの特徴をよく表しています。皆様もこの名前から知るそれぞれの特徴に是非ご注目ください！





これは楽！道路沿いの紀元杉



美しい渓谷なので、写真撮影！

## 【2日目】

いよいよ「白谷雲水峡」を登る日がやってきました！この日は、朝8時にホテルの前で集合し、田中主幹のよく利用しているお弁当屋さんでお昼ご飯を買いました。

今回のコースは、所要時間約4時間の太鼓岩往復コースで、私たちは、朝9時頃に太鼓岩へ向けて出発しました。

### ■ 白谷雲水峡「太鼓岩往復コース」

きれいに整備された道を通ったら、今までイメージしたことが現実となりました！数年前から屋久島の写真や動画などを観て、「とても神秘的で美しい！実際に見てもこんな感じかな？もしかして加工した写真？」などの想像ばかりしていましたが、それは、現実にある絶景でした。

今回、私が最も興味を持っていたスポットは、「苔むす森」でした。映画「もののけ姫」のモデルとなったことから、海外にいるジブリファンたちには、既に親しまれている場所ですね。私も「今度こそ、その苔むす森を見る！」と思いつつ、いそいそと苔むす森へ向かいましたが、道中にも自然が作った壮大で神秘的な風景を見ることができました。地面に根を張っている様子、空洞化してぼっかりと穴があいた幹、幹のうねり具合、切り株の上に種子が落ちその上に二代目の杉が育っている様子(二代杉)、倒木などの土埋木など、至る所に美しく神聖な大自然がありました。



私たちは、やがて太鼓岩に着き、その山頂からの風景に今までの疲れが一気にとれました。太鼓岩は、雲や霧がかかることが多いですが、この日は、まさに登山日和でしたので、太鼓岩から九州最高峰の宮之浦岳をはじめとする大きな山々が一望できました！

ここで知って得する情報です。私のように登山初心者もしくは海外からの方なら、山の中で「ヒメシャラ」という木に会ったら、抱きしめてみてください。すべすべとした触り心地に心の安らぎを得ることができます！



ヒメシャラ



神秘的で美しい！苔むす森

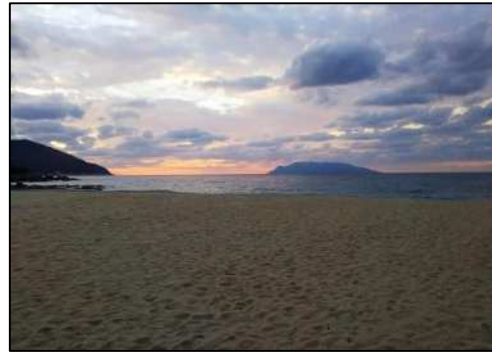


太鼓岩からの眺め

### ■ 永田浜

元々は、太鼓岩に登って午後 1 時頃には下山し、屋久島をぐるりと一周ドライブする予定でしたが、私たちのような登山初心者には無理だったのか、下山したら既に夕方 4 時でした。私たちは、少し残念な気持ちになりましたが、気持ちを切り替えて、日没までドライブすることにしました。

それから海沿いの道を 30 分ほどドライブした場所には、「永田浜」がありました。ここは、日本最大のウミガメの産卵地として知られており、産卵期間は、5 月上旬から 7 月下旬までです。もちろんウミガメの産卵を見ることはできませんでしたが、いつかまた訪れる日が来ることを願いながら、その場を後にしました。



オレンジ色のきれいな夕焼け

### 【3 日目】

私の足が棒になった…!朝目覚めたら、私の足が棒のようになっていました。私は、日常生活での運動不足を実感しながら、辛うじて起きました。

この日は、朝 8 時半にホテルの前で集合し、今回の行程の最後となる「杉の舎」へ向かいました。

### ■ 屋久杉工芸「杉の舎」

「杉の舎」は、屋久杉工芸品の製造や直売をしており、ここでは、「仙人さんの箸づくり体験」ができます。

この「仙人さんの箸づくり体験」は、千年の屋久杉素材を削って、その香りを嗅いでみて、五感を満たす体験です。



工程は、以下のとおりです。

まず、屋久杉素材を削って形にしていきます。ある程度形を削り出したら、浮造り(うづくり)で磨きます。浮造りは、茅(かや)の根を束ねたもので、木の板や柱などの柔らかい部分を磨く時に使われます。これで磨くと、屋久杉の油がにじんできてつやが出ます。これで完成です！

この体験を通して、屋久杉の触感や香りなどに触れてみて、前日の登山後の疲れがリフレッシュできました！皆様も旅の最後にこの五感を満たす「仙人さんの箸づくり体験」をしてみてください。きっと疲れた体を癒してくれると思います！



益救神社

## 【グルメ】

### ■ 飛び魚飛んだ定食

面白い名前の「飛び魚飛んだ定食」は、お店の看板メニューでした。3人とも同じメニューを注文しましたが、この定食が出てきた瞬間にみんな爆笑しました。

これが「飛び魚飛んだ定食」の見た目です。

その名前のとおり、まるで飛び魚が飛んでいるような様子でした。



お店のおばさんから「この飛び魚の唐揚げは、羽まで味わえますよ」と聞きましたが、一度も食べたことがない飛び魚の羽に一瞬迷いました。しかし、「せっかく屋久島に来たのだから、屋久島の食べ方で味わってみたい」と思い、慎重に食べてみました。

果たしてその味は…？

そうです。食べてみて良かったです！パリッと香ばしい食感は、今まで食べたことのない最高の唐揚げでした！

#### ■ トビウオひつまぶし

ひつまぶしといったら、ウナギの蒲焼きをのせたのが定番ですね。しかし、今回、屋久島で飛び魚のひつまぶしを味わってみました！歯ごたえのあるものが好きな私には、その弾力のある歯ごたえがウナギのひつまぶしよりずっと美味しかったです。



自然の中で食べるお弁当の味は最高！



トビウオ・カンパチ・秋太郎



人情味あふれるボリューム満点のカツ丼

今回、屋久島事務所のご支援をいただき、貴重な経験をさせていただきました！心より感謝申し上げます。

そして、各取材場所にご案内いただいた、屋久島事務所の田中主幹と米原主事、運転手さんには重ねてお礼申し上げます。

今回の取材を通して、大自然の素晴らしさ、楽しく自然と触れ合う方法など、多くを学ぶことができました！このような貴重な機会をいただき、誠にありがとうございました。

※ 同行したシンガポールのイミン国際交流員のコラムは、次号で紹介します。